

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・平林・吉田^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 2000年度年次報告は7月10日頃完成、約130ページになる予定である。(能登)
- IAEA会議に参加した。詳細は資料参照のこと。
 - ・ CINDA, EXFOR, ENDFの統一について議論された。
 - ・ JPNRIKなどの機関コードについて議論した。
 - ・ デジタイザーシステムの海外普及を考える。(加藤)
- 10編(-1998年度:6編、1999年度:4編)をEXFORに変換してIAEAに送付した。変換率は8割。1999年の10編と2000年の15編については手つかずである。2001年以降分はNRDFとEXFORのファイルを同時作成していく予定である。(吉田・大塚)
- 送付した10編はほぼ受理される見通しである。偏極量については大丈夫であるが、相関量については議論が必要かも知れない。(大林)

3:議論

- RCNPで得られた数値データの提供依頼
Physical Reviewに関しては論文掲載とともにデータの提供を受けられるようにBNL-NNDCが計画している。我々のグループでは(著者校正の実現と絡めて)RCNPの実験で得られた数値データの送付依頼をする。
- 共通実験条件の括り出し
共通実験条件については全てのデータセクションに共通なものは括り出すことにするが、それ以外のものについては括り出さなくてもよいこととする(冗長性を許す)。
- 今年度の中心活動
著者校正を実現させることを目標とする。

4:次回

2001年7月23日 17:30より